

実務経験のある教員等による授業科目一覧

【アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
トレーニング科学1	2	辰見康剛		
スポーツ観戦実習	1	吉田裕也		
テーピング・手技療法実習	1	加納賢一		
トレーナー基礎演習1	2	都地英雄		
トレーナー基礎演習2	2	都地英雄		
スポーツ医学1	1	寺本敦司	岩本英明	浦橋斉悟
スポーツ医学2	1	後藤平太	松岡沙也香	
スポーツ栄養学1	1	静間佳代子		
スポーツ心理学1	1	磯貝浩久		
アスレティックトレーナーの役割	2	加納賢一		
トレーニング科学2	2	辰見康剛		
トレーニング指導者実習	1	川上吉晃		
バイオメカニクス	2	後藤平太		
検査と測定の手法1	1	吉井 剛		
検査と測定の手法2	1	吉井 剛		
運動処方論	2	川上吉晃		
トレーニング指導者理論2	2	吉田裕也		
運動生理学	2	満園良一		
運動器の解剖と機能1	1	中田浩一		
運動器の解剖と機能2	1	中田浩一		
運動器の解剖と機能3	1	中田浩一		
スポーツ栄養学2	2	静間佳代子		
スポーツ心理学2	2	磯貝浩久		
救急処置	2	都地英雄		
救急処置実習	1	浪尾敬一		
スポーツ動作の観察と分析	1	川上吉晃		
コンディショニング1	2	清田祥之		
コンディショニング2	1	原 賢二		
コンディショニング3	1	清田祥之		
SAQトレーニング実習	1	日本SAQ協会		
トレーニング実技	1	吉田裕也		
機能評価法実習	1	松岡沙也香		
アスレティックリハビリテーション1	2	吉井 剛		
アスレティックリハビリテーション2	2	目良寛巳		
アスレティックリハビリテーション3	2	目良寛巳		
スポーツ外傷と障害1	2	中島秀彰	浦橋斉悟	松岡沙也香
スポーツ外傷と障害2	2	山田真人	松岡沙也香	
スポーツ外傷と障害3	2	都地英雄		
スポーツ医学3	2	山田真人	安永英樹	松岡沙也香
フィットネスエクササイズ	1	藤崎道子		

見学実習	1	加納賢一	川上吉晃	
スポーツ現場実習	1	加納賢一	川上吉晃	
検査・測定と評価実習、アスレティック リハビリテーションプログラム作成実習	1	加納賢一	川上吉晃	
アスレティックリハビリテーション実習	1	松岡沙也香	都地英雄	
アスレティックリハビリテーション実習2	1	都地英雄		
総合実習1	1	松岡沙也香	都地英雄	
総合実習2	1	松岡沙也香	都地英雄	
総合実習3	1	都地英雄		
総合実習4	1	松岡沙也香		
総合実習5	1	浪尾敬一		
生涯スポーツトレーナー実習	1	川上吉晃		
合 計	71			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	16
科目名	スポーツ社会学	対象学年	担当講師	
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司	
履修目標	・「スポーツとは何か」の定義および現代スポーツの考え方を理解する。特に「スポーツの文化性」に基づく、スポーツ観やスポーツ規範（スポーツマンシップ、フェアプレイほか）の重要性について理解する。 ・スポーツとの社会のかかわりが深まる時代において、スポーツ指導者はそのことを理解し、今後のスポーツ振興のあり方がどのように進んでいくのかも学びつつ、スポーツ自体の社会的価値を高める役割を担うことを理解する。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ 第2章 共通科目Ⅱ 第1章 第2章 第5章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講 数	授業内容
1	I-1-① スポーツの概念と歴史
2	I-1-② 文化としてのスポーツ
3	I-8-① 地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり
4	I-8-② 総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義
5	II-1-① 社会の中のスポーツ
6	II-5-③ 障害者とスポーツ
7	II-2-② スポーツと人権
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	16

科目名	スポーツ経営学	対象学年	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司
履修目標	我が国におけるスポーツ振興政策の概要を知り、今後のスポーツ活動における課題や展望について理解する。 また、さまざまなスポーツ組織やスポーツ事業のあり方と、その効果的・効率的な運営・管理を具体的に学び理解を深める。		
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅱ第1・2・4章		
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験		

講数	授業内容
1	Ⅱ-1-② 我が国のスポーツプロモーション
2	Ⅱ-2-① スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任
3	Ⅱ-4-① 総合型地域スポーツクラブの育成と運営
4	Ⅰ-8-③ 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」
5	Ⅱ-4-② スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング（1）
6	Ⅱ-4-② スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング（2）
7	Ⅱ-4-③ スポーツ事業のプロモーション
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	16

科目名	コーチング論1	対象学年	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司
履修目標	スポーツ指導者が社会に求められる背景と役割を理解する。日本スポーツ界の現状と目指すべき方向性を正しく理解し、「スポーツ科学」や「一貫指導システム」など指導するうえで、最も基本となるフィールドを知る。 指導活動にあたり、対象者に応じた適切なスポーツ指導計画の立案および、スポーツには「内在する危険」があり安全確保への配慮が欠かせないことを知る。		
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅰ） 第1・6章		
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験		

講数	授業内容
1	I-2-① スポーツ指導者とは
2	I-2-② スポーツ指導者の倫理 I-2-③ 指導者の心構え・視点
3	I-2-④ 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
4	I-6-① 指導計画のたて方
5	I-6-② スポーツ活動と安全管理
6	Ⅲ-2-① プレーヤーと指導者の望ましい関係
7	Ⅲ-2-② ミーティングの方法
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	16

科目名	コーチング論2	対象学年	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司
履修目標	・実際のスポーツ指導において、指導者はまず「望ましいプレイヤー」とは何かを描く必要があり、そのうえで、プレイヤーの自発性・積極性を導き出すことの重要性を学ぶ。プレイヤーとの関係のあり方やミーティングの手法などと共に、総合的な競技力向上のための理念を理解する。 ・指導者は競技者を育成するうえで、競技者個人やチームを対象に広い視野から身につけておくべきスキルが数多い。評価活動から計画の立案、チームマネジメントのほか、情報の戦略的活用に欠かせない活動などに求められる役割を理解し、現場での指導法を学ぶ。		
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ⅲ） 第1・6章		
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験		

講数	授業内容
1	Ⅲ-2-③ 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割（1）
2	Ⅲ-2-③ 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割（2）
3	Ⅲ-9-④ トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～（1）
4	Ⅲ-9-④ トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～（2）
5	Ⅲ-9-② トップアスリートの育成・強化の方法とその評価
6	Ⅲ-9-③ 競技力向上のためのチームマネジメント
7	Ⅲ-9-④ 競技力向上のための情報とその活用
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			2	30
科目名	トレーニング科学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	辰見 康剛	
履修目標	・スポーツに求められる「体力像」の概念を知り、体力の諸要素を高めるために行うトレーニング全般について学習する。その実践に求められる基礎知識および、トレーニングの形態別・体力要素別の分類に基づきそれぞれの効果を正しく認識する。 ・最新の科学的研究成果に基づくトレーニング理論を理解する。「トレーニング計画」や「体力テスト」、「スキルの獲得」など実践活用への課題と解決、応用の可能性に至るまで幅広く学ぶ。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ 第5章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	I-3-① 体力とは
2	I-3-② トレーニングの進め方 (1)
3	I-3-② トレーニングの進め方 (2)
4	I-3-③ トレーニングの種類 (1)
5	I-3-③ トレーニングの種類 (2)
6	Ⅲ-8-① トレーニング理論とその方法 (1)
7	Ⅲ-8-① トレーニング理論とその方法 (2)
8	Ⅲ-8-② トレーニング計画とその実際 (1)
9	Ⅲ-8-② トレーニング計画とその実際 (2)
10	Ⅲ-8-③ 体力テストとその活用 (1)
11	Ⅲ-8-③ 体力テストとその活用 (2)
12	Ⅲ-8-③ 体力テストとその活用 (3)
13	Ⅲ-8-④ スキルの獲得とその獲得過程 (1)
14	Ⅲ-8-④ スキルの獲得とその獲得過程 (2)
15	まとめ
備考	

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			2	32
科目名	保健体育理論1	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司	
履修目標	本講義の履修目標は、「より健康で健やかな社会」の実現するために、スポーツ指導者として基本知識をもった指導者を養成することである。最終講義では、健康スポーツセラピスト（初級）認定試験を受験して全員合格を目標としていく。			
使用テキスト等	（財）日本健康スポーツ連盟 健康スポーツセラピスト知識検定公式テキスト			
使用機器・用具	プロジェクター			
授業運営上の留意点				
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験60%			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	Part1 健康スポーツセラピスト学①（スポーツと社会環境）			
2	Part1 健康スポーツセラピスト学②（健康運動実践指導者、日体協ATなどの紹介を含む）			
3	Part2 スポーツトレーナー学①（日本のスポーツトレーナーの現状）			
4	Part8 健康スポーツセラピスト関係法規①（資格・免許制度についての概要）			
5	Part8 健康スポーツセラピスト関係法規②（医療行為、医療類似行為）			
6	Part8 健康スポーツセラピスト関係法規③（医療法と身分法）			
7	Part7 保健指導①（健康の定義、社会保障制度について）			
8	Part7 保健指導②（健康づくりの歩み）			
9	Part4 スポーツ栄養学①（栄養素の種類、栄養素の基礎知識）			
10	Part4 スポーツ栄養学②（エネルギー代謝、アスリートの食事、バランスの良い日本食の特徴）			
11	Part3 スポーツ医学①（血液の基礎、心臓の仕組みと働き）			
12	Part3 スポーツ医学②（内臓器官の働き）			
13	対策：健康スポーツセラピスト学			
14	対策：解剖生理学②（運動系、神経系）			
15	対策：解剖生理学①（脈管系、内臓系）			
16	まとめ			
備考				

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	32

科目名	保健体育理論2	対象学年	1年	担当講師	寺本 敦司
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科				
履修目標	本講義の履修目標は、保健体育理論Ⅰで学習した内容を踏まえ、スポーツ指導者に必要な知識をより深めることとする。それに加え、ストレッチ、トレーニングの知識を学習し、学生自身の健康づくりも視野に入れる。最終講義では、健康スポーツセラピスト（一般）認定試験を受験して全員合格を目標としていく。				
使用テキスト等	(財) 日本健康スポーツ連盟 健康スポーツセラピスト知識検定公式テキスト ストレッチ・体幹トレーニング・ツボの基本がわかるストレッチ実技編				
使用機器、用具	プロジェクター				
授業運営上の留意点					
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験60%				
講数	授業内容				
1	Part3 スポーツ医学（健康とスポーツ）				
2	Part3 スポーツ医学（スポーツと健康管理）				
3	Part3 スポーツ医学（スポーツ外傷と熱中症、スポーツと救急処置）				
4	Part6 スポーツ心理学①（仮）（動機づけ、目標設定について、フィードバックについて）				
5	Part6 スポーツ心理学②（仮）（メンタルトレーニング）				
6	Part4 スポーツ栄養学①（スポーツと栄養素）				
7	Part4 スポーツ栄養学②（水分補給、サプリメントについて）				
8	Part5 スポーツマネジメント学（スポーツマネジメントの役割・発展について）				
9	Part5 スポーツマネジメント学（スポーツマネジメントの特徴・戦略について）				
10	ストレッチ理論				
11	ストレッチ実技①				
12	ストレッチ実技②				
13	解剖生理学まとめ				
14	スポーツ医学まとめ				
15	対策授業				
16	まとめ				
備考					

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	16

科目名	発育発達論	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	乙木 幸道	
履修目標	・子どもの発育発達特性を知り、スポーツ活動・運動が子どもの心身に与えるさまざまな影響とケガの病気を正しく理解し、そのうえで発育ステージに応じたプログラムづくりを学ぶ。 ・スポーツ活動の広まりは、スポーツ指導における対象の多様さを伴う。中高年、女性など数を増す一方の指導対象について、その特性を理解し、それぞれへの具体的な対応について学ぶ。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ 第7章 共通科目Ⅱ 第5章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	I-7-① 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 (1)
2	I-7-① 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 (2)
3	I-7-② 発育発達期に多いケガや病気 (1)
4	I-7-② 発育発達期に多いケガや病気 (2)
5	I-7-③ 発育発達期のプログラム
6	Ⅱ-5-① 中高年者とスポーツ
7	Ⅱ-5-② 女性とスポーツ
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	スポーツ観戦実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	吉田 裕也
履修目標	本講義は、アスレティックトレーナー実技試験の試験科目になりうる競技種目・2020年東京オリンピック競技種目を中心に競技特性・ルールについてを学習していく。		
使用テキスト等	特になし		
使用機器・用具	パソコン、プロジェクター、紙ファイルなど		
授業運営上の留意点	発表資料については、授業前日までに担当講師へ提出。なお、資料に関しては、フォーマットをもとに発表資料をパソコンで作成することを義務づける。E-mail a-teramoto@kmsv.jp		
成績評価基準	出席率・・・70% 日常点・・・10% 発表資料・・・20%		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	ガイダンス		
2	ラグビーフットボール		
3	サッカー		
4	バスケットボール・テコンドー		
5	バレーボール・ウエイトリフティング		
6	フェンシング		
7	アーチェリー		
8	柔道・レスリング/卓球・バトミントン		
9	野球・アーチェリー/近代五種		
10	体操（新体操含）・水泳（シンクロ含）		
11	スキー・スケート競技		
12	陸上競技（走・投・跳）		
13	ハンドボール・カヌー		
14	フィールド・ホッケー		
15	野球		
備考			

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	からだの仕組み	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	浪尾 敬一
履修目標	運動器の解剖と機能を習得する		
使用テキスト等	アスレティックトレーナー専門テキスト②		
使用機器、用具			
授業運営上の留意点			
成績評価基準	筆記試験、実技試験の総合評価		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	運動の表し方		
2	運動器の構造と機能		
3	脊柱の運動		
4	頸椎の運動		
5	胸椎と胸郭の運動		
6	腰椎・仙椎・骨盤の運動		
7	上肢帯の運動		
8	肩関節の運動		
9	肘関節の運動		
10	手関節・手の運動		
11	股関節の機能解剖と運動		
12	膝関節の運動		
13	足関節・足部の運動		
14	手指・足指の運動		
15	総括		
備考			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	16
科目名	体力測定法	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	川上 吉晃	
履修目標	①体力測定の方法を理解する。 ②健康・体力に関連するさまざまな体力要素（身体組成、全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性）について、測定方法の実習とその評価を行い、運動指導者としての基礎的能力を養う。			
使用テキスト等	『体力テストの方法と活用』 『健康運動実践指導者養成用テキスト』			
使用機器、用具				
授業運営上の留意点				
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験・・・60%			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	体力の概念			
2	測定①(無酸素性能力・有酸素性能力)			
3	測定②(最大酸素摂取量-直接法・間接法-)			
4	測定③(無酸素性代謝閾値)			
5	測定④(体脂肪量-インピーダンス法・皮脂厚法)			
6	体力テストの測定(新体力テスト・エクササイズガイド)			
7	体力テストの評価活用方法			
8	まとめ			
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
備考				

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	テーピング・手技療法実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	加納 賢一
履修目標	スポーツ指導者に必要なテーピングとマッサージを習得する		
使用 テキスト等	資料配布		
使用 機器,用具			
授業運営 上の 留意点	実技はリスク管理を考慮し行う		
成績 評価基準	筆記試験、実技試験の総合評価		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	イントロダクション		
2	上肢のテーピング 1		
3	上肢のテーピング 2		
4	下肢のテーピング 1		
5	下肢のテーピング 2		
6	体幹のテーピング		
7	あん摩法の基礎		
8	あん摩法の応用		
9	マッサージ法の基礎		
10	マッサージ法の応用		
11	指圧法の基礎		
12	指圧法の応用		
13	スポーツマッサージの基礎		
14	スポーツマッサージの応用		
15	総括		
備考			

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	トレーニング指導者理論	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	吉田 裕也
履修目標	本講義では、一般人からトップアスリートまで、あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導する為の知識を身につける事を目標とする。		
使用テキスト等	トレーニング指導者テキスト(理論編)		
使用機器、用具	PC、プロジェクター、ポインターなど		
授業運営上の留意点			
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験・・・60%		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	トレーナーとは		
2	スポーツ外傷・障害		
3	救急処置法		
4	関節運動		
5	機能解剖(上肢)		
6	機能解剖(脊柱)		
7	機能解剖(下肢)		
8	体力学総論		
9	骨格筋系、神経系、内分泌系と運動		
10	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動		
11	運動と栄養		
12	運動と心理		
13	スポーツ選手の整形外科的傷害と予防		
14	生活習慣病とその予防、運動指導の科学		
15	まとめ		
備考			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			2	30
科目名	トレーナー基礎演習 1	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	都地 英雄	
履修目標	本講義では、他教科の復習も踏まえ、スポーツ指導者を志す者として必要な基礎知識を身につける事を目的とする。			
使用テキスト等	資料配布			
使用機器、用具	PC、プロジェクター、ポインターなど			
授業運営上の留意点				
成績評価基準	終講試験(筆記)、出席点、課題点、授業内点で評価（100点）			
講数	授業内容	実施後×E		
1	解剖学～骨～			
2	解剖学～骨の部位～			
3	上肢の解剖学～関節、靱帯～			
4	上肢の解剖学～関節、靱帯～			
5	上肢の解剖学～筋肉～			
6	上肢の解剖学～筋肉～			
7	体幹の解剖学～関節、靱帯～			
8	体幹の解剖学～関節、靱帯～			
9	体幹の解剖学～筋肉～			
10	体幹の解剖学～筋肉～			
11	下肢の解剖学～関節、靱帯～			
12	下肢の解剖学～関節、靱帯～			
13	下肢の解剖学～筋肉～			
14	下肢の解剖学～筋肉～			
15	終講試験			
備考				

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	トレーナー基礎演習2	対象学年	2年	担当講師	都地 英雄
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科		2年	都地 英雄	
履修目標	理論試験過去問題を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする				
使用 テキスト等	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト2 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト8 必要に応じてプリント配付				
使用 機器/用具					
授業運営 上の 留意点					
成績 評価基準	終講試験(筆記)、出席点、授業内点で評価(100点)				
講数	授業内容			実施後メモ	
1	AT理論試験過去問平成24年『救急処置』				
2	AT理論試験過去問平成25年『救急処置』				
3	AT理論試験過去問平成26年『救急処置』				
4	AT理論試験過去問平成27年『救急処置』				
5	AT理論試験過去問平成28年『救急処置』				
6	AT理論試験過去問平成29年『救急処置』				
7	AT理論試験過去問平成30年『救急処置』				
8	AT理論試験過去問平成24年『運動器の解剖と機能』				
9	AT理論試験過去問平成25年『運動器の解剖と機能』				
10	AT理論試験過去問平成26年『運動器の解剖と機能』				
11	AT理論試験過去問平成27年『運動器の解剖と機能』				
12	AT理論試験過去問平成28年『運動器の解剖と機能』				
13	AT理論試験過去問平成29年『運動器の解剖と機能』				
14	AT理論試験過去問平成30年『運動器の解剖と機能』				
15	終講試験				
備考					

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	8/18
科目名	スポーツ医学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	寺本 敦司	
履修目標	スポーツ指導者になる上で、スポーツと健康の関連性やスポーツ活動中に多いケガや病気についての理解と対処法、救急時の処置などの知識を深め、現場で活かせるようにしていくことを目標とする。今後のスポーツ医学関連授業の基礎となるため、学生らが前向きに学習できるような動機づけをする			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ第4章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	I -4-① スポーツと健康
2	I -4-② スポーツ活動中に多いケガや病気
3	I -4-③ 救急処置
4	まとめ
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	4/18
科目名	スポーツ医学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	岩本 英明	
履修目標	「呼吸循環器系の働き」および「エネルギー供給」について、その仕組み評価方法について理解する。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ 第4章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	Ⅲ-7-② 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 (1)
2	Ⅲ-7-② 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 (2)
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	6/18
科目名	スポーツ医学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	浦橋 斉悟	
履修目標	・メディカルコンディショニングの基本はアスリートの健康管理であり、コンディションの悪化要因としてのスポーツ外傷・障害および疾病について予防、早期発見、治療を行うことである。ここでは、チームにおける健康管理について考えていく。 ・メディカルチェックは、整形外科領域だけでなく、内科領域の状態もきちんと評価することが望まれ、競技レベルの高いアスリートを指導する立場から必要な視点を学習していく。			
使用 テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ 第7章			
成績 評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	Ⅲ-10-① アスリートの健康管理
2	Ⅲ-10-② アスリートの内科的障害と対策
3	まとめ
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	8/22

科目名	スポーツ医学2	対象学年	1年	担当講師	後藤 平太
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科				
履修目標	・筋・骨・関節および神経がどのようにつながり、動きを起こさせているかを理解する。 ・スポーツにかかわる力学的基礎を理解する。				
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ 第4章				
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験				

講数	授業内容
1	Ⅲ-7-① 運動器のしくみと働き (1)
2	Ⅲ-7-① 運動器のしくみと働き (2)
3	Ⅲ-7-③ スポーツバイオメカニクスの基礎 (1)
4	Ⅲ-7-③ スポーツバイオメカニクスの基礎 (2)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	14/22
科目名	スポーツ医学2	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	松岡 紗也香	
履修目標	・安全で健康なスポーツ活動をサポートするシステムをはじめ、アスリートに生じやすい外科的傷害を理解しその予防と対応策、リハビリ、コンディショニングなどの実際を身につける、そのほか、「特殊環境」「アンチドーピング」など、スポーツを取り巻くさまざまな環境における医学的知識を学ぶ。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅲ 第7章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	Ⅲ-10-③ アスリートの外傷・障害と対策
2	Ⅲ-10-④ アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 (1)
3	Ⅲ-10-④ アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 (2)
4	Ⅲ-10-⑤ コンディショニングの手法 (1)
5	Ⅲ-10-⑤ コンディショニングの手法 (2)
6	Ⅲ-10-⑦ 特殊環境下での対応
7	Ⅲ-10-⑧ ドーピング防止
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	16

科目名	スポーツ栄養学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	静間 佳代子	
履修目標	・健康の保持・増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取について基本的な知識を得る。併せて正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントする上での第一歩であることを学習する。 ・アスリートに対する栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割および関係する栄養素などについての知識を身につける。アスリートにとって適切な食事やトレーニングの目的にかなった食事のとり方などを具体的に学ぶ。			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ 第5章 共通科目Ⅲ 第2章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	I-5-① スポーツと栄養 (1)
2	I-5-① スポーツと栄養 (2)
3	I-5-① スポーツと栄養 (3)
4	I-5-① スポーツと栄養 (4)
5	Ⅲ-4-① アスリートの栄養摂取と食生活(1)
6	Ⅲ-4-① アスリートの栄養摂取と食生活(2)
7	Ⅲ-4-① アスリートの栄養摂取と食生活(3)
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
備考	

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	24

科目名	スポーツ心理学1	対象学年	クラス	担当講師
対象学科	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	磯貝 浩久	
履修目標	・スポーツが個人の人格形成に及ぼす効果や、個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスに影響することを知る。さらにスポーツへの動機づけやコーチングの表かなどの原理・原則から具体的な方法論までを学ぶ。 ・スポーツに関連した精神的障害についての知識を習得することにより早期にこれに気づき、適応に対応し、精神的障害再発を防止するような配慮できるようにする			
使用テキスト等	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅱ 第3章 共通科目Ⅲ7章			
成績評価基準	①出席点 ②日常点 ③期末試験			

講数	授業内容
1	Ⅱ-3-① スポーツと心
2	Ⅱ-3-② スポーツにおける動機づけ (1)
3	Ⅱ-3-② スポーツにおける動機づけ (2)
4	Ⅱ-3-③ コーチングの心理
5	Ⅲ-6-① メンタルマネジメント (1)
6	Ⅲ-6-① メンタルマネジメント (2)
7	Ⅲ-6-① メンタルマネジメント (3)
8	Ⅲ-6-② 指導者のメンタルマネジメント (1)
9	Ⅲ-6-② 指導者のメンタルマネジメント (2)
10	Ⅲ-10-⑥ スポーツによる精神障害と対策 (1)
11	Ⅲ-10-⑥ スポーツによる精神障害と対策 (2)
12	まとめ
13	
14	
15	
備考	

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	アスレティックトレーナーの役割	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	加納 賢一	履修年次	1
講義の内容	1)アスレティックトレーナーとは 2)アスレティックトレーナーの役割 3)医科学スタッフとの連携・協力 4)組織の運営と管理 5)アスレティックトレーナーと倫理		
講義の目的	本講義では、スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解し、アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなどアスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序や倫理観を身につけることをねらいとする。		
到達目標	・アスレティックトレーナーとは何かを理解できるようになる。 ・アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や世界の状況を理解できるようになる。 ・アスレティックトレーナーの具体的な業務を理解できるようになる。 ・他の専門スタッフとの連携協力ができるようになる。 ・組織の運営及び管理能力を養うことを理解できるようになる。 ・社会的な秩序や倫理規定を理解できるようになる。		
講義の進め方	・座学講義		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ①アスレティックトレーナーの役割		

科目名	トレーニング科学2	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	辰見 康剛	履修年次	1
講義の内容	1)トレーニングの基礎的概念 ・トレーニングの原則 ・トレーニングの分類 ・トレーニングの条件 2)トレーニングの種類と科学的基礎 ・筋力 ・筋持久力 ・全身持久力 ・柔軟性 ・敏捷性 ・バランス ・協調性 3)トレーニング効果の評価 4)トレーニングと性 5)トレーニングと発育・発達 6)トレーニングと老化 7)トレーニングと栄養 8)疲労と疲労回復 9)トレーニング環境 10)オーバートレーニング		
講義の目的	本講義では、1)トレーニングの基礎的概念 2)トレーニングの種類と科学的基礎 3)トレーニング効果の評価 4)トレーニングと性 5)トレーニングと発育・発達 6)トレーニングと老化 7)トレーニングと栄養 8)疲労と疲労回復 9)トレーニング環境 10)オーバートレーニング を習得することを目的とする。		
到達目標	本講義では、1)トレーニングの基礎的概念 2)トレーニングの種類と科学的基礎 3)トレーニング効果の評価 4)トレーニングと性 5)トレーニングと発育・発達 6)トレーニングと老化 7)トレーニングと栄養 8)疲労と疲労回復 9)トレーニング環境 10)オーバートレーニング を習得し、スポーツ競技者に対し指導ができ、外傷・傷害予防、競技力向上に寄与することを目的とする。		
講義の進め方	・座学講義		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・『トレーニングの科学的基礎—現場に通じるトレーニング科学の基礎』(ブックハウスHD) ・『トレーニング指導者テキスト・理論編』(大修館書店)		

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	トレーニング指導者実習	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	川上 吉晃	
履修目標	トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる。			
使用テキスト等	トレーニング指導者テキスト[実践編]			
使用機器、用具	フリーウエイト、トレーニングマシン、ダンベル、ラダー、ミニハードル			
授業運営上の留意点	実技能力獲得を重点に置く			
成績評価基準	筆記試験、実技試験の総合評価			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	トレーニング指導者の役割			
2	トレーニング計画の立案（総論）			
3	筋力トレーニングのプログラム作成			
4	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成			
5	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成			
6	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成			
7	柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成			
8	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成			
9	パワー向上トレーニングの実際			
10	持久力向上トレーニングの実際			
11	スピード向上トレーニングの実際			
12	柔軟性向上トレーニングの実際			
13	傷害の受傷から復帰までの実際			
14	トレーニング効果の測定と評価			
15	総括			
備考				

科目名	バイオメカニクス	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	後藤 平太	履修年次	1
講義の内容	1) バイオメカニクス基本理論 ・筋の仕組みと働き ・筋活動のエネルギー供給 ・運動の指令と調節 ・身体 の構造と運動 ・身体運動の力学的基礎 2) バイオメカニクスの実際ー各種動作のバイオメカニクスー ・歩動作 ・走動作 ・跳動作 ・投動作 ・打動作 ・蹴動作 ・滑動作 ・泳動 作 ・漕動作(ボート) ・漕動作(自転車)		
講義の目的	本講義では、 1) バイオメカニクス基本理論 ・筋の仕組みと働き ・筋活動のエネルギー供給 ・運動の指令と調節 ・身 体の構造と運動 ・身体運動の力学的基礎 2) バイオメカニクスの実際ー各種動作のバイオメカニクスー ・歩動作 ・走動作 ・跳動作 ・投動作 ・打動作 ・蹴動作 ・滑動作 ・泳動 作 ・漕動作(ボート) ・漕動作(自転車) の内容を習得する。		
到達目標	本講義では、 1) バイオメカニクス基本理論 ・筋の仕組みと働き ・筋活動のエネルギー供給 ・運動の指令と調節 ・身 体の構造と運動 ・身体運動の力学的基礎 2) バイオメカニクスの実際ー各種動作のバイオメカニクスー ・歩動作 ・走動作 ・跳動作 ・投動作 ・打動作 ・蹴動作 ・滑動作 ・泳動 作 ・漕動作(ボート) ・漕動作(自転車) の内容を習得し、スポーツ競技者に対し、外傷・傷害予防、競技力向上に寄 与できる能力を獲得する。		
講義の進め方	・座学講義		
その他(講義に必要 な教材や器材 など)	スポーツバイオメカニクス入門(杏林書店)		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	検査と測定の手法1	科目区分	専門基礎分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	吉井 剛	履修年次	2
講義の内容	2)アスレティックトレーナーに必要な検査測定の手法 ・姿勢・身体アライメントの観察、計測の目的と意義 ・姿勢・身体アライメントの観察、計測方法・関節弛緩性検査の目的と意義 ・関節弛緩性に関する検査測定 ・関節可動域検査の目的と意義 ・関節可動域の計測方法・関節可動域に影響をあたえる筋群のタイトネスの検査測定方法 ・筋萎縮に関する検査の目的と意義・筋萎縮や筋肥大の程度と観察方法 ・徒手筋力検査の目的と意義・徒手筋力検査の具体的方法(指定図書による)		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。		
到達目標	・姿勢・身体アライメントの観察、計測の目的と意義を説明できる。 ・姿勢・身体アライメントの観察、計測ができる。・関節弛緩性検査の目的と意義を説明できる。 ・関節弛緩性に関する検査測定ができる。 ・関節可動域検査の目的と意義を説明できる。 ・関節可動域の計測ができる。 ・関節可動域に影響をあたえる筋群のタイトネスを検査測定できる。 ・筋萎縮に関する検査の目的と意義を説明できる。・筋萎縮や筋肥大の程度を観察できる。 ・徒手筋力検査の目的と意義を説明できる。・徒手筋力検査の具体的方法を説明できる。		
講義の進め方	・各検査項目の目的と意義についての講義では、これらの検査項目に影響を与える要因もあわせて説明講義し、最終的な評価解釈につながるよう配慮する。 ・具体的に検査測定ができるまでが到達目標となっている検査測定については、充実した実習を行う。 ・身体機能の検査測定手法の習得の前提として、解剖学、運動学、運動生理学などの基盤知識が不可欠である。これらの基礎知識の修得状況を繰り返し確認しながら、体系的な評価につながる検査測定の知識となるよう配慮する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ⑤検査・測定と評価、ワークブック ・関節可動域の計測方法は日本整形外科学会の方法に準じ、テキストではこれを引用する。 ・徒手筋力検査の具体的方法は本テキスト以外に指定図書をもうけてこれに準ずる。(関節可動域測定法・協同医書出版社)		

科目名	検査と測定の手法2	科目区分	専門基礎分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	吉井 剛	履修年次	2
講義の内容	2)アスレティックトレーナーに必要な検査測定の手法 ・機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定の目的と意義 ・機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法 ・全身持久力の検査測定の目的と意義・全身持久力の評価指標 ・全身持久力を測定検査する具体的手法・身体組成の検査測定の目的と意義 ・身体組成を測定検査する具体的方法・キャリパーを用いた身体組成計測 ・一般的な体力測定の検査項目とその目的と概要		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。		
到達目標	・機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定の目的と意義を説明できる。 ・機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法の概要を説明できる。 ・全身持久力の検査測定の目的と意義を説明できる。・全身持久力の評価指標を説明できる。 ・全身持久力を測定検査する具体的手法を説明できる。・身体組成の検査測定の目的と意義を説明できる。 ・身体組成を測定検査する具体的手法を説明できる。・キャリパーを用いた身体組成計測を行うことができる。 ・その他に一般的な体力測定で行われる検査測定の項目をあげ、その目的と概要を説明できる。		
講義の進め方	・各検査項目の目的と意義についての講義では、これらの検査項目に影響を与える要因もあわせて説明講義し、最終的な評価解釈につながるように配慮する。 ・具体的に検査測定ができるまでが到達目標となっている検査測定については、充実した実習を行う。 ・身体機能の検査測定手法の習得の前提として、解剖学、運動学、運動生理学などの基盤知識が不可欠である。これらの基礎知識の修得状況を繰り返し確認しながら、体系的な評価につながる検査測定の知識となるよう配慮する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ⑤検査・測定と評価、ワークブック ・関節可動域の計測方法は日本整形外科学会の方法に準じ、テキストではこれを引用する。 ・徒手筋力検査の具体的方法は本テキスト以外に指定図書をもうけてこれに準ずる。(新徒手筋力検査法 原著第8版 協同医書出版社)		

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	運動処方論	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	川上 吉晃
履修目標	健康の維持・増進のための運動が行われている。しかし運動強度、頻度、時間など実施方法を間違えると健康の維持どころか健康を害する。正しい運動の処方方法を身につけ、運動処方の理論と実際について実習を含めて学んでいく。		
使用テキスト等	『健康運動実践指導者養成用テキスト』 必要に応じてプリント配付		
使用機器/用具			
授業運営上の留意点			
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験・・・60%		
講数	授業内容	実施後×E	
1	運動効果と運動不足が健康に与える影響		
2	トレーニングの原則と効果		
3	エクササイズガイドについて		
4	健康づくりのための運動プログラム① (作成上のポイントについて)		
5	健康づくりのための運動プログラム② (加齢やトレーニング、環境による変化について)		
6	健康づくりのための運動プログラム③ (ウォーミングアップとクーリングダウンについて)		
7	有酸素運動の特徴と効果①		
8	有酸素運動の特徴と効果②		
9	有酸素運動の特徴と効果③		
10	肥満と運動		
11	糖尿病と運動		
12	高血圧および脂質異常症と運動		
13	虚血性心疾患と運動		
14	高齢者と運動		
15	まとめ		
備考			

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	トレーニング指導者理論 2	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	吉田 裕也
履修目標	トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる医科学的な基礎を構築する。		
使用テキスト等	トレーニング指導者テキスト[基礎編]		
使用機器/用具			
授業運営上の留意点	確かな根拠に基づいたスポーツ医学を習得する。		
成績評価基準	筆記試験		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	体力学総論		
2	機能解剖（上肢・胸郭）		
3	機能解剖（脊柱・下肢）		
4	バイオメカニクスの基礎理論		
5	スポーツとトレーニングのバイオメカニクス		
6	呼吸循環系・エネルギー代謝と運動		
7	骨格筋系・神経系・内分泌系と運動		
8	運動と栄養に関する基礎理論		
9	競技力向上・健康増進と栄養		
10	運動と心理に関する基礎理論		
11	競技力向上・健康増進への活用		
12	外傷毎のリハビリテーションプログラム（下肢） 2		
13	救急処置法・整形外科的傷害・生活習慣病と予防		
14	運動指導の科学		
15	総括		
備考			

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	運動生理学	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	満園 良一	履修年次	1
講義の内容	1)筋収縮とエネルギー供給 2)筋線維の種類とその特徴 3)神経系による運動の調節 4)運動と呼吸 5)運動と循環 6)運動と内分泌 7)運動と代謝 8)身体組成と肥満 9)運動時の水分・栄養摂取 10)運動と体温調節 11)運動と環境 12)運動と発育・発達 13)運動と老化(加齢)		
講義の目的	本講義では、 1)筋収縮とエネルギー供給 2)筋線維の種類とその特徴 3)神経系による運動の調節 4)運動と呼吸 5)運動と循環 6)運動と内分泌 7)運動と代謝 8)身体組成と肥満 9)運動時の水分・栄養摂取 10)運動と体温調節 11)運動と環境 12)運動と発育・発達 13)運動と老化(加齢) の内容を習得する。		
到達目標	本講義では、 1)筋収縮とエネルギー供給 2)筋線維の種類とその特徴 3)神経系による運動の調節 4)運動と呼吸 5)運動と循環 6)運動と内分泌 7)運動と代謝 8)身体組成と肥満 9)運動時の水分・栄養摂取 10)運動と体温調節 11)運動と環境 12)運動と発育・発達 13)運動と老化(加齢) の内容を習得し、スポーツ競技者に対し、外傷・傷害予防、競技力向上に寄与できる能力を獲得をする。		
講義の進め方	・座学講義		
その他(講義に必要な教材や器材など)	運動生理学20講(朝倉書店)		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	運動器の解剖と機能1	科目区分	専門基礎分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	中田 浩一	履修年次	1
講義の内容	1)運動器の解剖と機能概論 3)体幹の基礎解剖学と運動学		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。		
到達目標	・頸部の基礎解剖と運動について理解し、頸部の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・腰・背部の基礎解剖と運動について理解し、腰・背部の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。		
講義の進め方	・解剖学概説(人体の方向と位置を示す用語、人体の区分、人体各部の名称) ・頸部・体幹の骨の名称、筋の名称と走行、起始、停止について解説する。 ・頸部・体幹の靱帯、関節の構造と機能について解説する。 ・頸部・体幹の関節の運動について解説する。 ・頸部・体幹の関節の運動時に作用する筋、支配神経について解説する。 ・体表解剖について解説する(実技を含める)。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ②運動器の解剖と機能、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど)、人体筋標本、関節標本 ・人体解剖ビデオ		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	運動器の解剖と機能2	科目区分	専門基礎分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	中田 浩一	履修年次	1
講義の内容	2)上肢の基礎解剖と運動		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。		
到達目標	・肩・上腕の基礎解剖と運動について理解し、肩・上腕の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・肘・前腕の基礎解剖と運動について理解し、肘・前腕の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・手・指の基礎解剖と運動について理解し、手・指の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。		
講義の進め方	・解剖学概説(人体の方向と位置を示す用語、人体の区分、人体各部の名称) ・上肢の骨の名称、筋の名称と走行、起始、停止について解説する。 ・上肢の靱帯、関節の構造と機能について解説する。 ・上肢の関節の運動について解説する。 ・上肢の関節の運動時に作用する筋、支配神経について解説する。 ・体表解剖について解説する(実技を含める)。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ②運動器の解剖と機能、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど)、人体筋標本、関節標本、人体解剖ビデオ		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	運動器の解剖と機能3	科目区分	専門基礎分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	中田 浩一	履修年次	1
講義の内容	4)下肢の基礎解剖と運動		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。		
到達目標	・股関節・大腿の基礎解剖と運動について理解し、股関節・大腿の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・膝の基礎解剖と運動について理解し、膝の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・下腿・足関節の基礎解剖と運動について理解し、下腿・足関節の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。 ・足・指の基礎解剖と運動について理解し、足・指の運動時に関与する骨、筋、関節、靱帯、神経支配を同定できるようになる。		
講義の進め方	・解剖学概説(人体の方向と位置を示す用語、人体の区分、人体各部の名称) ・下肢の骨の名称、筋の名称と走行、起始、停止について解説する。 ・下肢の靱帯、関節の構造と機能について解説する。 ・下肢の関節の運動について解説する。 ・下肢の関節の運動時に作用する筋、支配神経について解説する。 ・体表解剖について解説する(実技を含める)。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ②運動器の解剖と機能、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど)、人体筋標本、関節標本、人体解剖ビデオ		

科目名	スポーツ栄養学2	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	静間 佳代子	履修年次	2
講義の内容	1)アスリートの身体組成、からだ作りとウェイトコントロール 2)トレーニングスケジュール、競技特性と食事、コンディショニングと栄養摂取、水分補給 3)栄養欠陥に基づく疾病と対策 4)特殊環境下における栄養ケア 5)サプリメントの利用時の留意点 6)アスリートの栄養教育		
講義の目的	本講義では、コンディショニングにおける食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアができるようにする。 また、栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができるようにする。 さらに、アスリートに対するサプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、管理栄養士と連携した栄養ケアができるようにする。		
到達目標	1.アスリートにおける栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。 2.トレーニングプログラムや競技特性と関連づけた食事のあり方を理解し、日常的な栄養ケアができるようになる。 3.栄養欠陥に基づく疾病の知識を学び、その対策を講じることができるようになる。 4.合宿・遠征などの特殊環境下における栄養ケアができるようになる。 5.サプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、アスリートに対する管理ができるようになる。 6.管理栄養士との連携ができるようになる。		
講義の進め方	日本体育協会アスレティックリハビリテーション専門科目テキスト「スポーツと栄養」に沿って説明する。 テキストに示されている図表について詳細に説明してエビデンスを理解させるとともに、食品や食事の写真などを活用して、スポーツ現場で実践可能な食事と栄養摂取の方法について、具体的に示す。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨「スポーツと栄養」 ・副読本として「アスリートの栄養・食事ガイド(日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会編集)」		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ心理学2	科目区分	専門基礎分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	磯貝 浩久	履修年次	2
講義の内容	1) スポーツと認知 2) 動機づけ 3) 目標設定 4) 運動の学習 5) スポーツと発達 6) 競技者の性格と態度 7) パーソナリティ 8) メンタルトレーニング 9) スポーツカウンセリング		
講義の目的	1) スポーツと認知 2) 動機づけ 3) 目標設定 4) 運動の学習 5) スポーツと発達 6) 競技者の性格と態度 7) パーソナリティ 8) メンタルトレーニング 9) スポーツカウンセリング 上記項目を習得する。		
到達目標	本講義では、 1) スポーツと認知 2) 動機づけ 3) 目標設定 4) 運動の学習 5) スポーツと発達 6) 競技者の性格と態度 7) パーソナリティ 8) メンタルトレーニング 9) スポーツカウンセリング の内容を習得し、スポーツ競技者に対し、外傷・傷害予防、競技力向上に寄与できる能力を獲得をする。		
講義の進め方	・座学講義		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・『スポーツメンタルトレーニング教本』(大修館書店)		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	救急処置	科目区分	専門科目
単位数	2	時間数	30
担当教員名	都地英雄	履修年次	2
講義の内容	1) 救急処置の基本的知識・救急処置の重要性・救急処置実施者の心得・救急処置の基本的留意点 2) 緊急時の対応計画と外傷の評価・事故時の評価手順(フローチャート)・緊急を要するかどうかの評価・事故時の現場における傷害の評価 3) 外傷時の救急処置・皮膚に傷のないケガの処置・皮膚に傷のあるケガの処置・患部の固定法・運搬法 4) 緊急時の救命処置・心肺蘇生法・頭・頸部外傷時の救急処置法 5) 内科的疾患の救急処置・熱中症の救急処置・過換気症候群の救急処置・ショックの予防と処置・その他のスポーツでよくみられる内科的疾患と救急処置 6) 現場における救急体制・救急体制の重要性と計画・事故時のフローチャート・救急処置用器材に関する知識と準備・現場における救急体制の実際・競技種目特性と救急処置・各種競技会場におけるトレーナー活動の実際		
講義の目的	1) 救急処置の基本的知識 救急処置の重要性や実施者の得について学び、救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。 2) 緊急時の対応計画と外傷の評価 適切な救急処置の手順を理解させるとともに、傷害評価の方法について理解させることをねらいとする。 3) 外傷時の救急処置 スポーツ活動によって生じた傷害における具体的な救急処置の方法を学ぶことをねらいとする。 4) 緊急時の救命処置 生命に関わる緊急を要する状態の際の救命処置や、重大事故における救急処置の重要性について理解させ、技術を身につけることをねらいとする。 5) 内科的疾患の救急処置 スポーツ活動時に生じた熱中症や過換気症候群などの内科的な疾患における救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。 6) 現場における救急体制・救急体制の重要性と計画 スポーツ活動時に生じた熱中症や過換気症候群などの内科的な疾患における救急処置の基本的な留意点について理解させることをねらいとする。		
到達目標	1) 救急処置の基本的知識 救急処置の意義と目的が理解できるようになる。 2) 緊急時の対応計画と外傷の評価 事故発生時の一連の観察(評価)、判断、処置の手順が理解できるようになる。 3) 外傷時の救急処置 適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる。・患部の安静および保護を目的とした各種固定法の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる。・患者の安全で効果的な運搬法の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる。 4) 緊急時の救命処置 事故発生からの一連の救命処置の内容を熟練し、一定基準以上の心肺蘇生法の知識と技術を習得する(心肺蘇生法の技能検定に合格すること)。 5) 内科的疾患の救急処置・スポーツ活動時によくみられる内科的な疾患の特徴と救急処置の意義と目的が理解できるようになる。・熱中症における適切な救急処置の具体的な方法を理解し、正しく実践できるようになる。 6) 現場における救急体制・救急体制の重要性と計画 スポーツ現場における特性を理解した上で、事前に救急体制を配備しておくことの重要性について理解し、それらを計画することで事故発生時に的確な対応ができるようになる。・各競技種目あるいは競技会場における救護活動の実際がイメージできるようになる。		
講義の進め方	1) 救急処置の基本的知識 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。 2) 緊急時の対応計画と外傷の評価 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。 3) 外傷時の救急処置 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。 4) 緊急時の救命処置 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。 5) 内科的疾患の応急処置 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。 6) 現場における救急体制 基本的にはテキストにそって進め、必要に応じてデモンストレーションや実習などを実施しながら理解を深める。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑧「救急処置」、ワークブック・毛布・RIC E処置の実習に必要な救急用品(氷、氷嚢、バンデージ、ビニール袋、包帯など)・止血法の実習に必要な止血棒、ゴム手袋など。・固定法の実習に必要な用品(三角巾、副子、包帯、テーピングテープ、各種ブレース、ネックロック、イモビライザーなど)・運搬法の実習に必要な担架、脊柱ボードなど。・心肺蘇生法訓練用ダミー人形および関連教材(気道模型、感染予防用シールドなど)・自動体外式除細動器(AED)トレーニング用・頭・頸部固定用器材(脊柱ボード、ヘッドイモビライザー、ネックロックなど)・過換気症候群の処置デモ用紙袋・救急処置用器材(脊柱ボード、AED、固定用装具など)		

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	救急処置実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	浪尾 敬一
履修目標	日本赤十字社救急法救急員の資格取得を目標とする		
使用テキスト等	日本赤十字社指定のテキスト		
使用機器・用具	Qマスク、ファーストエイドバック、AEDレサシアンなど		
授業運営上の留意点	日本赤十字社は、「人道」という赤十字の使命に基づき、救急法などの講習を受講し、生命と健康を守るという意識を持たせていく		
成績評価基準	資格取得をもって単位認定とする		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	オリエンテーション		
2	(学科) 救急法救急員について		
3	(学科・実技) 心肺蘇生 (胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸)		
4	(学科・実技) AEDを用いた除細動		
5	(学科・実技) 気道異物の除去・止血法		
6	(学科) 急病、ケガ		
7	(学科) きずの手当		
8	(実技) きずの手当①		
9	(実技) きずの手当②		
10	(学科) 骨折の手当		
11	(学科) 搬送・救護		
12	(実技) 骨折の手当①		
13	(実技) 骨折の手当②		
14	(実技) 搬送・救護		
15	総合実技		
備考			

科目名	スポーツ動作の観察と分析	科目区分	専門分野
単位数	1	時間数	20
担当教員名	川上 吉晃	履修年次	2
講義の内容	1)アスレティックトレーナーに必要な評価 ・アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義および役割・機能評価のプロセス 3)スポーツ動作の観察と分析 ・評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義・歩行動作のバイオメカニクス・歩行動作に影響をあたえる機能的、体力的要因・走動作のバイオメカニクス・走動作に影響をあたえる機能的、体力的要因・外傷の発生機転となるような走動作の特徴とメカニズム・ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス・ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因・外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作の特徴とメカニズム・跳動作のバイオメカニクス・跳動作に影響をあたえる機能的、体力的要因・外傷の発生機転となるような跳動作の特徴とメカニズム・投動作のバイオメカニクス・投動作に影響をあたえる機能的、体力的要因・外傷の発生機転となるような投動作の特徴とメカニズム・あたり動作のバイオメカニクス・あたり動作に影響をあたえる機能的、体力的要因		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力を習得することをねらいとする。 本講義では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つのスポーツ基本動作についてそのバイオメカニクス、動作に影響をあたえる機能的と体力的要因を説明できる能力を習得することを目的とする。		
到達目標	・アスレティックトレーナーによる評価の目的、意義およびその役割を説明できるようになる。 ・機能評価のプロセスを説明できるようになる。 ・機能評価に必要な検査測定項目を挙げることができる。 ・機能評価で使われる機器、道具を挙げ、それぞれの機器、道具の使用目的を説明できるようになる。 ・機能評価における検査測定結果を解釈し、運動機能に関する問題点を抽出できるようになる。 ・機能評価結果に基づいたアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定ができるようになる。 ・機能評価から抽出した問題点に基づいて、アスレティックリハビリテーションプログラムおよびコンディショニングプログラムの内容を検討することができる。 ・評価におけるスポーツ動作の観察・分析についてその目的と意義を説明できる。 ・歩行動作のバイオメカニクスを説明できる。 ・歩行動作に影響をあたえる機能的、体力的要因を説明できる。 ・外傷の発生機転となる歩行メカニズムを説明できる。 ・走動作のバイオメカニクスを説明できる。 ・走動作に影響をあたえる機能的、体力的要因を説明できる。 ・外傷の発生機転となるような走動作のメカニズムを説明できる。 ・ストップ・方向転換動作のバイオメカニクスを説明できる。 ・ストップ・方向転換動作に影響をあたえる機能的、体力的要因を説明できる。 ・外傷の発生機転となるようなストップ・方向転換動作のメカニズムを説明できる。		
講義の進め方	・講義内容はテキストに従う。 ・検査測定項目や評価項目の説明に終わることなく、評価体系の大枠の理解を基礎知識として最初に理解させる。 ・医学的判断は医療資格者による必要があることを確認し、医療資格者との連携の重要性を周知する。 ・いずれの動作においても、解剖学と運動学の用語を使った説明ができるように配慮する。 ・座学にて各動作のバイオメカニクスを習得した上での実習を基本とする。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ⑤検査・測定と評価、ワークブック		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	コンディショニング1	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	清田 祥之	履修年次	2
講義の内容	1. コンディショニングの把握と管理 2. コンディショニング方法 1) 競技力(パフォーマンス)向上を目的としたコンディショニング方法 ー代謝系トレーニング(有酸素(減脂肪、持久力向上)、無酸素)ー筋力トレーニング ーコーディネーショントレーニング ースタビリティトレーニング ーアジリティトレーニング・スプリントと持久性トレーニング・サーキットトレーニング 2) 傷害予防を目的としたコンディショニング方法・ストレッチング・テーピング・アイシング(クーリング)・アクアコンディショニング・ウォーミングアップとクーリングダウン 4. 競技種目特性とコンディショニング 1) 冬季競技 (1)氷上種目(2)雪上種目 2) 記録系競技 (1)陸上競技(2)水泳競技 3) 球技系競技 (1)サッカー(2)ラグビー、アメリカンフットボール(3)バスケットボール、ハンドボール(4)バレーボール (5)野球、ソフトボール(6)テニス、バドミントン 4) 採点競技系 (1)器械体操 (2)新体操 5) 格技系 (1)柔道 (2)レスリング (3)ボクシング 5. 傷害予防に必要な環境整備		
講義の目的	1) コンディショニングの把握と管理: コンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者(競技者)が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえ学ぶ。また、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境づくりの方法を学ぶ。 本講義では、コンディショニングの目的、要素を理解し、その評価法を学び、コンディショニングを意識したトレーニング計画の立案、アドバイスができるようになることをねらいとする。 2) コンディショニングの方法: 本講義では、多様なスポーツ現場でその時々求められる目的にあったコンディショニングにおける実際の方法を学び、現場に対応できる能力を身につけることをねらいとする。 4) 競技特性とコンディショニング: 本講義では、様々な競技のスポーツの特性を見極め理解し、その競技特性にあったコンディショニングプログラムの立案できる能力を獲得すること をねらいとする。 5) 外傷予防に必要な環境整備: 本講義では、コンディショニングの要素、評価を通して傷害予防の方策を見出しスポーツ現場の環境整備を推進できるようになることをねらいとする。		
到達目標	1) コンディショニングの把握と管理: コンディショニングの目的を理解する。・コンディショニングの要素である1) 身体的因子 2) 環境的因子 3) 心因的因子を理解しスポーツ現場にその知識を還元できるようになる。・コンディショニング評価の必要性を理解し、その評価方法を学び評価できるようになる。・コンディショニングの目的を意識したトレーニング計画の立案、設計ができるようになる。 2) コンディショニングの方法: ・競技力(パフォーマンス)向上を目的としたコンディショニング方法を理解し指導できるようになる。・傷害予防を目的としたコンディショニング方法が理解し指導できるようになる。・疲労回復を目的とした方法が理解し指導できるようになる。・ウォーミングアップとクーリングダウンの目的が理解し指導できるようになる。 4) 競技特性とコンディショニング: ・冬季競技の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。 ・格技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・記録系種目の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・球技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・採点競技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。 5) 外傷予防に必要な環境整備: ・冬季競技の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・格技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・記録系種目の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。 ・球技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。・採点競技系の各種目を学びそれらの競技環境を知り、種目特有のプログラム立案ができるようになる。		
講義の進め方	1) コンディショニングの把握と管理: できるだけテキストに準じて進行し、総論、各論という流れを作り進める。 2) コンディショニングの方法: ・競技力(パフォーマンス)向上を目的としたコンディショニング方法を理解し指導できるようになる。・傷害予防を目的としたコンディショニング方法が理解し指導できるようになる。・疲労回復を目的とした方法が理解し指導できるようになる。・ウォーミングアップとクーリングダウンの目的が理解し指導できるようになる。 4) 競技特性とコンディショニング: できるだけテキストに準じて進行し、総論、各論という流れを作り進める。 5) 外傷予防に必要な環境整備: ・できるだけテキストに準じて進行し、総論、各論という流れを作り進める。 ・各種目のスポーツの競技特性、ルール、傷害像、用具・道具、施設、競技環境などをグループにわけ、調		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」、ワークブック ・アクアコンディショニングの実施風景ビデオ・ダンベル、チューブ、ラダー、不安定板、コーン(マーカー) ・外傷予防に必要な環境設備		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	コンディショニング2	科目区分	専門分野
単位数	1	時間数	30
担当教員名	原 賢二	履修年次	2
講義の内容	3 コンディショニングの実際 1) ストレッチング 2) テーピング総論(定義・目的、有効性、注意点、基本テープ) 各論(足部、足関節、下腿部、膝関節、大腿部・股関節、体幹(腰部、胸部)、肩部(肩鎖関節、肩関節)、肘関節、手関節・指関節) 3) コンディショントレーニング(機能調整、回復、向上) ー代謝系トレーニング(有酸素(減脂肪、持久力向上)、無酸素) ー筋力トレーニング ーコーディネイショントレーニング ースタビリティトレーニング ーアジリティトレーニング		
講義の目的	本講義では、コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深く理解し、体得することにより予防的アプローチとして実践で使い指導できるようになることをねらいとする。		
到達目標	・ストレッチングの実際を通して柔軟性の獲得、指導及び教育ができるようになる。 ・テーピング総論(定義・目的、有効性、注意点、基本テープ)を理解するとともに各論(足部、足関節、下腿部、膝関節、大腿部・股関節、体幹(腰部、胸部)、肩部(肩鎖関節、肩関節)、肘関節、手関節・指関節)主要各部のテーピングを、競技特性・障害特性を考慮の上高いレベルで実践できるようにする。 ・コンディショントレーニング(機能調整、回復、向上)である 1)代謝系トレーニング(有酸素(減脂肪、持久力向上)、無酸素) 2)筋力トレーニング 3)コーディネイショントレーニング 4)スタビリティトレーニング 5)アジリティトレーニング の指導ができるようになる。		
講義の進め方	各項目実技、実演にふさわしい教室、体育館、グラウンドにて講座進行上必要な備品を準備しテキストにのっとり進行する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」、ワークブック ・テーピングテープ各種、適量、周辺関連器材(カッター、はさみ、スプレーなど) ・ラダー、コーン(マーカー)、ストップウォッチ、ミニハードル、自転車エルゴメーター、瞬発系バイクなど ・メジャー、皮脂厚計、関節角度計		

科目名	コンディショニング3	科目区分	専門分野
単位数	1	時間数	30
担当教員名	清田 祥之	履修年次	2
講義の内容	3 コンディショニングの実際 4) スプリントと持久性トレーニング 5) サーキットトレーニング 6) ウォーミングアップ、クーリングダウン 7) アクアコンディショニング 8) フィールド(専門体力)テスト 9) フィットネス(基礎体力)チェック 10) 身体(組成)測定、柔軟性テスト		
講義の目的	本講義では、コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深く理解し、体得することにより予防的アプローチとして実践で使い指導できるようになることをねらいとする。		
到達目標	・スプリントと持久性トレーニングの指導ができるようになる。 ・サーキットトレーニングの指導アレンジができるようになる。 ・ウォーミングアップ、クーリングダウンの指導、アレンジができるようになる。 ・アクアコンディショニングを実技を通して指導できるようになる。 ・フィールド(専門体力)テストを実技を通して指導、アレンジができるようになる。 ・フィットネス(基礎体力)チェックを実技を通して指導、アレンジができるようになる。 ・身体(組成)測定、柔軟性テスト指導、アレンジができるようになる。		
講義の進め方	各項目実技、実演にふさわしい教室、体育館、グラウンドにて講座進行上必要な備品を準備しテキストにのっとり進行する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥「予防とコンディショニング」、ワークブック ・「アクアコンディショニングの実際」のビデオ ・ラダー、コーン(マーカー)、ストップウォッチ、ミニハードル、自転車エルゴメーター、瞬発系バイクなど ・メジャー、皮脂厚計、関節角度計		

2019年度 講義計画書

		単位	時間
		2	30
科目名	ジュニアスポーツ理論	対象学年	2年
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	担当講師	寺本 敦司
履修目標	①子どもの発育・発達期の身体的・心理的特徴を理解する ②子どもたちに対するスポーツの必要性を理解する ③コーディネーション能力を高めるプログラムを作成し、指導できるようになる。		
使用テキスト等	公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 必要に応じて、プリントを配布		
使用機器/用具	パソコン、プロジェクター		
授業運営上の留意点	各テーマに沿って、講義を展開していく。学生とのディスカッションも重視し、自分の考えを整理し、発表する能力の育成を目指す。		
成績評価基準	出席点・・・30% 日常点（授業態度、積極性）・・・10% 定期試験・・・60%		

講数	授業内容	実施後メモ
1	ジュニアスポーツ指導員の役割	
2	ジュニア期のスポーツの考え方①	
3	ジュニア期のスポーツの考え方②	
4	子どもの発達のコミュニケーションスキル①	
5	子どもの発達のコミュニケーションスキル②	
6	子どもの発達のコミュニケーションスキル③	
7	動きの発達とスキルの獲得①（2～4歳）	
8	動きの発達とスキルの獲得②（2～4歳）	
9	動きの発達とスキルの獲得①（5～8歳）	
10	動きの発達とスキルの獲得②（5～8歳）	
11	動きの発達とスキルの獲得①（9～12歳）	
12	動きの発達とスキルの獲得②（9～12歳）	
13	動きの発達とスキルの獲得①（13～15歳）	
14	動きの発達とスキルの獲得②（13～15歳）	
15	まとめ	
備考		

2019年度 講義計画書

		単位	時間
		1	30
科目名	ジュニアスポーツ実技	対象学年	2年
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	担当講師	寺本 敦司
履修目標	①子どもの発育・発達期の身体的・心理的特徴を理解する ②子どもたち（各年代）における獲得できる運動スキルを理解する ③コーディネーション能力を高めるプログラムを作成し、指導できるようになる。		
使用テキスト等	公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 必要に応じて、プリントを配布		
使用機器/用具	パソコン、プロジェクター		
授業運営上の留意点	実技授業という形がメインであるため、ケガの内容に十分にウォーミングアップ、クーリングダウンをさせ、ケガをさせないようにする。		
成績評価基準	出席点・・・30% 日常点（授業態度、積極性）・・・10% 定期試験・・・60%		

講数	授業内容	実施後メモ
1	コーディネーション能力について	
2	運動あそび・ゲームの実践①（2～4歳）	
3	運動あそび・ゲームの実践②（2～4歳）	
4	運動あそび・ゲームの実践③（5～8歳）	
5	運動あそび・ゲームの実践④（5～8歳）	
6	スポーツスキル獲得の実践①（9～12歳）	
7	スポーツスキル獲得の実践②（9～12歳）	
8	スポーツスキル獲得の実践③（13～15歳）	
9	スポーツスキル獲得の実践④（13～15歳）	
10	スポーツスキル獲得の実践⑤（13～15歳）	
11	指導実習①	
12	指導実習②	
13	指導実習③	
14	指導実習④	
15	まとめ	
備考		

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	SAQトレーニング実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	日本SAQ協会
履修目標	NPO法人日本SAQ協会SAQインストラクターレベル1資格取得を目標とする。		
使用 テキスト等	資料配布		
使用 機器/用具	ミニハードル、ラダー、ストレッチマットなど		
授業運営 上の 留意点	ケガのないようにウォーミングアップ、クーリングダウンを十分に実施させる		
成績 評価基準	資格試験合格をもって、単位認定とする。		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	SAQ概論		
2	講義（プリパレーション）		
3	実技（プリパレーション）		
4	講義（アジリティー）		
5	講義（下肢のプライオメトリクス）		
6	実技（アジリティ）		
7	実技（下肢のプライオメトリクス）		
8	講義（クイックネス）		
9	講義（スピード）		
10	実技（クイックネス）		
11	実技（スピード）		
12	実技/講義（体幹トレーニング）		
13	実技（総合実習①）		
14	実技（総合実習②）		
15	実技（総合実習③）		
備考			

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	トレーニング実技	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	吉田 裕也
履修目標	各マシントレーニングをの使用方法・注意点を理解し、正しいフォームを身に付ける。対象者に対し効果的かつ安全に指導ができるようになる。		
使用テキスト等	『健康運動実践指導者養成用テキスト』		
使用機器、用具	トレーニング器具		
授業運営上の留意点	トレーニングウェア着用、室内シューズ、タオル、飲み物		
成績評価基準	出席率…30% 日常点…10% 実技試験…30% 筆記試験…30%		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	健康づくりとレジスタンス運動		
2	レジスタンス運動の分類		
3	目的に応じたレジスタンスエクササイズ		
4	マシントレーニング		
5	マシントレーニング(上肢Ⅰ)		
6	マシントレーニング(上肢Ⅱ)		
7	マシントレーニング(下肢Ⅰ)		
8	マシントレーニング(下肢Ⅱ)		
9	マシントレーニング(全身Ⅰ)		
10	マシントレーニング(全身Ⅱ)		
11	フリーウエイトトレーニング(1)		
12	フリーウエイトトレーニング(2)		
13	自重や身近な用具を使ったトレーニング		
14	まとめ		
15	まとめ		
備考			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	機能評価法実習	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	松岡・村上	
履修目標	本講義では、スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置、テーピングを身につける事を目標とする。			
使用テキスト等	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3、専門科目テキスト6			
使用機器/用具	PC、プロジェクター、ポインターなど			
授業運営上の留意点				
成績評価基準	出席点、実習内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	上肢のスポーツ傷害の評価			
2	上肢のスポーツ傷害の評価			
3	体幹のスポーツ傷害の評価			
4	体幹のスポーツ傷害の評価			
5	上肢のスポーツ傷害の評価			
6	上肢のスポーツ傷害の評価			
7	下肢のスポーツ傷害評価			
8	下肢のスポーツ傷害評価			
9	下肢のスポーツ傷害評価			
10	下肢のスポーツ傷害評価			
11	上下肢のスポーツ傷害評価			
12	上下肢のスポーツ傷害評価			
13	下肢のスポーツ傷害評価			
14	下肢のスポーツ傷害評価			
15	まとめ			
備考				

科目名	アスレティックリハビリテーションI	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	吉井 剛	履修年次	2
講義の内容	1)アスレティックリハビリテーションの考え方 2)運動療法 (アスレティックリハビリテーション におけるエクササイズの基本知識) 3)物理療法と補装具に関する基礎知識		
講義の目的	本講義では、アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。 アスレティックトレーナーが指導するアスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズの基本理論と方法について学ぶ。対象者に妥当なエクササイズ指導ができるようにすることをねらいとする。 アスレティックリハビリテーションの補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学ぶ。物理療法の使用に関する理解を深め、対象者に正しいアドバイスができるようにすることをねらいとする。		
到達目標	・リハビリテーションの概念と定義を知る。 ・アスレティックリハビリテーションの定義を知る。 ・我が国のアスレティックリハビリテーションの歴史を知る。 ・アスレティックリハビリテーションの概要(目標、過程、関係職種と役割、考慮すべき事項、等)について理解する。 ・アスレティックリハビリテーションの現場におけるアスレティックトレーナーの活動内容を知る。 ・機能評価の概要について理解する。 ・アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法の概要について理解する。 ・進行上のリスク管理の概要を理解する。 ・アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的を理解する。 ・筋力回復、筋力増強エクササイズの目的、適応と注意について理解する。 ・筋力エクササイズの様々な手法について理解する。 ・基本的な筋力エクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・関節可動域回復、拡大エクササイズの目的を理解する。 ・関節可動域エクササイズの適応と注意、様々な手法について理解する。 ・基本的な関節可動域エクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・神経筋協調エクササイズの目的、意義と注意、様々な手法について理解する。 ・基本的な神経筋協調エクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・全身持久力回復、向上エクササイズの目的、適応と注意、様々な手法について理解する。 ・基本的な全身持久力回復、向上エクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・身体組成の管理に用いるエクササイズの目的、適応と注意、様々な手法について理解する。 ・基本的な身体組成管理のエクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・再発予防、外傷予防のための動作エクササイズの目的、適応と禁忌、手法について理解する。 ・基本的な再発予防、外傷予防のための動作エクササイズに関する妥当な指導が実施できるようにする。 ・特定名称で広まっているエクササイズの概要を理解する。		
講義の進め方	・座学を基本とする。 ・基本的な流れはテキストに沿う。 ・ビデオ等の視聴覚機器を活用し、受講者の理解を深めるようにする。 ・ATがアスレティックリハビリテーション指導を実施している現場等を受講者に見学させる。 ・アスレティックリハビリテーションの現場を見学する、映像を活用するなど、受講者が習得事項のイメージを明確にできる工夫をする。 ・各種エクササイズ方法を、充実した実習により習得させる。 ・受講者自身が物理療法による身体刺激を体感できる機会を設ける。 ・アイシング、交代浴、等のスポーツ現場で活用される物理療法は、充実した実習により十分な技能の習得を要する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦「アスレティックリハビリテーション」、ワークブック ・必要物品は、座学を基本とすることから視聴覚機器一式 ・実習に用いるエクササイズ機器、用具 ・ラバーチューブ各種、ダンベル各種、エクササイズ用自転車、エクササイズ用ベット、エクササイズ用マシン、フリーウェイト類一式 ・受講者が物理療法による身体刺激を体感できるような物品準備、環境設定 ・アイシング用具一式		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	アスレティックリハビリテーション2	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	目良 寛巳	履修年次	2
講義の内容	・外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(上肢・体幹)		
講義の目的	本講義は、別項の「検査・測定と評価」、「アスレティックリハビリテーションの基礎知識」の知識統合の講義となる。 例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 また例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。		
到達目標	・例題疾患として取り上げるものは、肩関節前方脱臼、投球障害肩、肘MCL損傷、上腕骨外側・内側上顆炎、手関節捻挫、頸椎捻挫、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症、筋・筋膜性腰痛、の9疾患である。 ・各疾患の病態を理解する。 ・各疾患のアスレティックリハビリテーションの過程と内容を理解する。 ・アスレティックリハビリテーションの実施にあたって、医師から得ておくべき医学的情報を知る。 ・各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な情報収集ができるようになる。 ・各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な機能評価ができるようになる。 ・アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになる。 ・アスレティックリハビリテーションにおける身体的リスクを考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようになる。 ・スポーツ復帰の目安を明確にして、対象者に説明することができるようになる。		
講義の進め方	・基礎知識に関する指導は座学を基本とする。 ・各種エクササイズの方法は、充実した実習により習得できるようにする。 ・アスレティックリハビリテーションの現場見学、映像などにより、受講者に習得事項のイメージを明確させる工夫する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦「アスレティックリハビリテーション」、ワークブック ・必要物品は、座学を基本とすることから視聴覚機器一式 ・実習に用いるエクササイズ機器、用具 ・ラバーチューブ各種、ダンベル各種、エクササイズ用自転車、エクササイズ用ベット、エクササイズ用マシン、フリーウェイト類一式 ・受講者が物理療法による身体刺激を体感できるような物品準備、環境設定 ・アイシング用具一式		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	アスレティックリハビリテーション3	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30
担当教員名	目良 寛巳	履修年次	2
講義の内容	・外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(下肢) ・競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング		
講義の目的	本講義は、別項の「検査・測定と評価」、「アスレティックリハビリテーションの基礎知識」の知識統合の講義となる。 例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 また例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。 アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」について学ぶ。 競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解し、有効な指導ができるようにすることをねらいとする。		
到達目標	・例題疾患として取り上げるものは、次の8疾患である。 - 急性スポーツ外傷として、足関節捻挫、膝MCL損傷、膝ACL損傷術後、大腿屈筋肉離れ、の4疾患 - 慢性スポーツ外傷として、扁平足障害、脛骨過労性骨障害、鵠足炎、膝蓋大腿関節障害、の4疾患 ・各疾患の病態、アスレティックリハビリテーションの過程と内容を理解する。 ・アスレティックリハビリテーションの実施にあたって、医師から得ておくべき医学的情報を知る。 ・各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な情報収集、機能評価ができるようになる。 ・アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになる。 ・アスレティックリハビリテーションにおける身体的リスクを考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようになる。 ・スポーツ復帰の目安を明確にして、対象者に説明することができるようになる。 ・アスレティックリハビリテーションの進行に必要な競技種目特性の捉え方を理解する。 ・各競技種目で要する動作の特性を理解する(選定競技種目10競技程度)。 ・動作の遂行に要する機能的要素について理解をする(詳細は機能評価の項で)。 ・各競技種目で要する体力的な特性を理解する(選定競技種目10競技程度)。 ・各競技種目における外傷発生機転について理解する。 ・各競技種目に復帰するにあたっての機能的、体力的到達目標を理解する。 ・スポーツ復帰の目標(上記)達成に要するアスレティックリハビリテーションの内容を理解する。 ・リハビリテーションプログラミングの過程と方法を理解する。		
講義の進め方	・基礎知識に関する指導は座学を基本とする。 ・各種エクササイズの方法は、充実した実習により習得できるようにする。 ・アスレティックリハビリテーションの現場見学、映像などにより、受講者に習得事項のイメージを明確にさせる。 ・実技は運動療法(エクササイズ)の項で実施する。 ・基本的な流れはテキストに従う。 ・ビデオ等の視聴覚機器を活用し、受講者の理解を深められる。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦「アスレティックリハビリテーション」、ワークブック ・実習に用いるエクササイズ機器、用具・ラバーチューブ各種、ダンベル各種、エクササイズ用自転車、エクササイズ用ベット、エクササイズマシン、フリーウェイト類一式・受講者が物理療法による身体刺激を体感できるような物品準備、環境設定・アイシング用具一式		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ外傷と障害1	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの20時間
担当教員名	中島 秀彰	履修年次	1
講義の内容	1) スポーツ外傷・障害総論 3) 体幹のスポーツ外傷 8) 整形外科的メディカルチェック スポーツ外傷・障害の成書であれば、スポーツ外傷、頭部障害、スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。		
到達目標	・スポーツ外傷の総論について基礎的事項、応用的事項について理解・習得することができるようになる。 ・体幹のスポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について理解・習得することができるようになる。 ・整形外科的メディカルチェックについてについて理解・習得することができるようになる。		
講義の進め方	・スポーツ外傷の総論についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。 ・体幹のスポーツ外傷・障害(選定疾患:1. 頸椎捻挫、2. バーナー症候群、3. 頸椎椎間板ヘルニア、4. 腰椎椎間板ヘルニア、5. 腰椎分離症、6. 筋・筋膜性腰痛、7. 骨盤帯機能不全症候群)についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。 ・整形外科的メディカルチェックについて詳細に解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ③スポーツ外傷・傷害の基礎知識、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど) ・人体筋標本 ・関節標本 ・人体解剖ビデオ		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ外傷と障害1	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの6時間
担当教員名	浦橋 斉悟	履修年次	1
講義の内容	2) 上肢のスポーツ外傷 スポーツ外傷・障害の成書であれば、スポーツ外傷、スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、上肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。		
到達目標	・上肢のスポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について理解・習得することができるようになる。		
講義の進め方	・上肢のスポーツ外傷・障害(選定疾患: 1. 肩関節前方脱臼、2. 肩腱板損傷、3. 検査関節脱臼、4. 投球障害肩、5. 肘MCL損傷、6. 外側・内側上顆炎、7. 手関節捻挫、8. TFCC損傷、9. 手指捻挫)についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ③スポーツ外傷・傷害の基礎知識、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど) ・人体筋標本 ・関節標本 ・人体解剖ビデオ		

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ外傷と障害1	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの4時間
担当教員名	松岡 紗也香	履修年次	1
講義の内容	2) 上肢のスポーツ外傷 スポーツ外傷・障害の成書であれば、スポーツ外傷、スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、上肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。		
到達目標	・上肢のスポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について理解・習得することができるようになる。		
講義の進め方	・上肢のスポーツ外傷・障害(選定疾患: 1. 肩関節前方脱臼、2. 肩腱板損傷、3. 検査関節脱臼、4. 投球障害肩、5. 肘MCL損傷、6. 外側・内側上顆炎、7. 手関節捻挫、8. TFCC損傷、9. 手指捻挫)についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ③スポーツ外傷・傷害の基礎知識、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど) ・人体筋標本 ・関節標本 ・人体解剖ビデオ		

科目名	スポーツ外傷と障害2	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの26時間
担当教員名	山田 真人	履修年次	1
講義の内容	5) 重篤な外傷 (頭部、脊髄損傷、大出血、等) 6) 年齢・性別による特徴 (女性、高齢者、発育期、等) 7) 整形外科的メディカルチェック スポーツ外傷・障害の成書であれば、スポーツ外傷、頭部障害、スポーツ外傷の年齢、性差による特徴について学ぶ。		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。		
到達目標	・重篤な外傷(頭部、脊髄損傷、大出血など)の病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手の検査について理解・習得することができるようになる。 ・年齢、性別によるスポーツ外傷・障害の特徴(女性、高齢者、発育期)を知ることができるようになる。 ・整形外科的メディカルチェックの方法を習得することができるようになる。		
講義の進め方	・重篤な外傷(頭部、脊髄損傷、大出血など)の病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手の検査について解説する。 ・年齢、性別、によるスポーツ外傷・障害の特徴(女性、高齢者、発育期)を解説する。 ・整形外科的メディカルチェックの方法をについて解説する(実技を含む)。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ③スポーツ外傷・障害の基礎知識、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど) ・人体筋標本 ・関節標本 ・人体解剖ビデオ		

科目名	スポーツ外傷と障害2	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの4時間
担当教員名	松岡 紗也香	履修年次	1
講義の内容	4) 下肢のスポーツ外傷・障害		
講義の目的	本講義では、アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために、下肢の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び、重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得することをねらいとする。		
到達目標	・下肢のスポーツ外傷・障害についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について理解・習得することができるようになる。		
講義の進め方	・下肢のスポーツ外傷・障害(選定疾患:1. 大腿屈筋肉離れ、2. 大腿部打撲、3. 膝ACL損傷、4. 膝PCL損傷、5. 膝MCL損傷、6. 膝半月損傷、7. 膝軟骨損傷、8. 腸脛靭帯炎、9. 鷲足炎、10. 膝蓋靭帯炎、11. 膝蓋骨脱臼、12. 膝蓋大腿関節障害、13. 腓腹筋肉離れ、14. アキレス腱断裂、15. 頸骨過労性骨障害、16. 下腿疲労骨折、17. 足関節捻挫、18. 扁平足障害(足底腱膜炎、後頸骨筋筋膜炎)、19. 足部疲労骨折、20. 過剰骨障害)についての病態、発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	・日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ③スポーツ外傷・障害の基礎知識、ワークブック ・人体骨格模型(全身、部位に分かれたものなど) ・人体筋標本 ・関節標本 ・人体解剖ビデオ		

2019年度 講義計画書

単位	時間
2	30

科目名	スポーツ外傷と障害3	対象学年	2年	担当講師	都地 英雄
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科		2年	都地 英雄	
履修目標	本講義ではアスレティックトレーナーとしてスポーツ外傷・障害の基礎知識を身につける事を目的とする。				
使用テキスト等	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 必要に応じてプリント配布				
使用機器/用具					
授業運営上の留意点					
成績評価基準	終講試験、出席点、授業内点で評価(100点)				
講数	授業内容			実施後メモ	
1	AT理論試験過去問平成24年『アスレティックリハビリテーション』				
2	AT理論試験過去問平成24年『アスレティックリハビリテーション』				
3	AT理論試験過去問平成25年『アスレティックリハビリテーション』				
4	AT理論試験過去問平成25年『アスレティックリハビリテーション』				
5	AT理論試験過去問平成26年『アスレティックリハビリテーション』				
6	AT理論試験過去問平成26年『アスレティックリハビリテーション』				
7	AT理論試験過去問平成27年『アスレティックリハビリテーション』				
8	AT理論試験過去問平成27年『アスレティックリハビリテーション』				
9	AT理論試験過去問平成28年『アスレティックリハビリテーション』				
10	AT理論試験過去問平成28年『アスレティックリハビリテーション』				
11	AT理論試験過去問平成29年『アスレティックリハビリテーション』				
12	AT理論試験過去問平成29年『アスレティックリハビリテーション』				
13	AT理論試験過去問平成30年『アスレティックリハビリテーション』				
14	AT理論試験過去問平成30年『アスレティックリハビリテーション』				
15	終講試験				
備考					

九州医療スポーツ専門学校アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ医学3	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの22時間
担当教員名	山田 真人	履修年次	2
講義の内容	1) アスリートにみられる内臓器官などの疾患(病気) 1.循環器系疾患 2.呼吸器疾患 3.消化器系疾患 4.血液疾患 5.皮膚疾患 6.腎・泌尿器疾患 7.代謝性疾患 など 疾患につき、その病態、症状、運動時の対応策(運動許可の条件を含む)、処置、予防策について学習する。 2) 感染症に対する対応策 1.呼吸器感染症 2.血液感染症 3.皮膚感染症 4.ウイルス性結膜炎 5.海外遠征時に注意すべき感染症 6.各競技別ルールにみられる感染症対策。 3) アスリートにみられる病的現象 1.オーバートレーニング症候群 2.突然死 3.過換気症候群 4.摂食障害 5.減量障害 6.飲酒・喫煙の問題点 5) 年齢・性別による特徴 2. 高齢者のスポーツ医学 6) 内科的メディカルチェック		
講義の目的	1) アスリートにみられる内臓器官などの疾患の病態、症状、対応策・処置、予防措置について理解する。 2) スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解する。 3) アスリートにみられる病的現象など(オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など)の病態、症状、原因などを理解し対策・処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶ。 5) 年齢・性別による特徴 高齢者のスポーツ医学 について学ぶ 6) メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習する。		
到達目標	1) 内臓器官などの疾患の病態、症状について認識できるようになるとともに、運動時の対応策(運動許可の条件を含む)、処置、予防策を講じることができるようになる。 2) 各種感染症の病態、症状を認識できるようになるとともに、その対応策・処置、予防措置を講じることができるようになる。 3) オーバートレーニング症候群の病態、症状について認識し、それに対する対応策・処置、予防措置を講じることができるようになる。・突然死の実態とその機序について学び、その予防措置を講じることができるようになる。 5) 年齢・性別による特徴 高齢者のスポーツ医学 の知識を得ることができる。 6) メディカルチェックの意義と必要性に関する知識を得ることができる。		
講義の進め方	1) 内臓器官などの疾患(病態、症状)について解説する。 2) 各種感染症(病態、症状など)について解説するとともに、感染予防対策について詳しく解説する。 3) 運動によって生じる特有の病的状態(病態、症状)について解説するとともに、アスレティックトレーナーとして行える対応策、救急処置、予防措置について詳しく解説する。 5) 年齢・性別による特徴 高齢者のスポーツ医学 について解説する。 6) メディカルチェックの意義、必要性、内容、検査項目などについて解説する。また、可能であれば運動負荷試験について実習を行い、その結果判定について解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)			

科目名	スポーツ医学3	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの4時間
担当教員名	安永 英樹	履修年次	2
講義の内容	5) 年齢・性別による特徴 3. 成長期のスポーツ医学 7) ドーピングコントロール		
講義の目的	5) 成長期の子供の生理的特徴、運動に対する応答、特異的な障害について学習する。 7) アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などを理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようにする。		
到達目標	5) 成長期の子供も生理的特徴、運動に対する応答についての知識を得ることができる。 7) ドーピングコントロールの意義と必要性に関する知識を得ることができる。 ・禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物を特定できるようになる。 ・アンチドーピングの趣旨を理解し、選手がアンチドーピングに違反しないように指導することができるようになる。 ・ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項を理解することができるようになる。		
講義の進め方	5) 成長期の子供も生理的特徴、運動に対する応答について解説するとともに、特異的な障害(病態、症状)およびその対応策、予防措置について詳しく解説する。 7) アンチドーピングの目的、ドーピングの定義について解説する。また、禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物について解説する。ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項についても解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ④健康管理とスポーツ医学、ワークブック 7) 世界アンチ・ドーピング規定、禁止リスト、監視プログラム、治療目的使用の適用措置に関する国際基準、各種申請書類(記入例)、検査に関する国際基準		

科目名	スポーツ医学3	科目区分	専門分野
単位数	2	時間数	30時間のうちの4時間
担当教員名	松岡 紗也香	履修年次	2
講義の内容	4) 特殊環境のスポーツ医学 1. 高所環境 2. 高圧・低圧環境 3. 暑熱環境 4. 低温環境 5. 時差 6. 海外遠征時の諸問題 5) 年齢・性別による特徴 1. 女性のスポーツ医学－生理的特徴		
講義の目的	4) 高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体の反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶ。 5) 女性の生理的特徴、運動に対する応答、特異的な障害について学習する。		
到達目標	4) 高所、低圧に対する生体の反応、順応、そして高所環境でみられる障害についての知識を得ることができる。 5) 女性の生理的特徴、運動に対する応答についての知識を得ることができる。		
講義の進め方	4) 高所、低圧、高圧、暑熱環境に対する生体の反応について解説するとともに、特殊環境でみられる障害の病態、症状、応急処置、予防措置について詳しく解説する。また、海外遠征時の諸問題について解説する。 5) 女性の生理的特徴、運動に対する応答について解説するとともに、特異的な障害(病態、症状)およびその対応策、予防措置について詳しく解説する。		
その他(講義に必要な教材や器材など)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ④健康管理とスポーツ医学、ワークブック 1) 皮膚模型 2) 感染症対策に必要な用具 3) 紙袋 6) 運動負荷試験に必要な器材(トレッドミル、心電計、血圧計、呼気ガス分析装置、AEDなど)		

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	フィットネスエクササイズ	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	藤崎 道子
履修目標	有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。		
使用テキスト等	『健康運動実践者養成用テキスト』		
使用機器/用具	CDラジカセ		
授業運営上の留意点	エアロビックダンス：トレーニングウェア着用、室内シューズ 水泳・水中運動：競泳水着		
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% 定期試験・・・60%(エアロビックダンス30%、水泳・水中運動30%)		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	オリエンテーション・有酸素運動の特性と効果		
2	エアロビックダンス（ローインパクト）		
3	エアロビックダンス（ハイインパクト）		
4	エアロビックダンス（運動強度）		
5	エアロビックダンス（キューイング）		
6	エアロビックダンス（クーリングダウン）		
7	エアロビックダンス（運動プログラムを作る）		
8	定期試験(エアロビックダンス)		
9	水泳・水中運動（安全対策について）		
10	水泳（各種泳法）		
11	水泳・水中運動（水中ウォーキング）		
12	水泳・水中運動（水中アクアビクス）		
13	水泳・水中運動（水中アクアビクス）		
14	水泳・水中運動（水中アクアビクス）		
15	まとめ（水泳・水中運動）		
備考			

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	見学実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	加納賢一・川上吉晃
履修目標	本講義では、スポーツ現場の見学を通してアスレティックトレーナーとして必要な資質を身につける事を目的とする。		
使用テキスト等			
使用機器、用具			
授業運営上の留意点			
成績評価基準	出席率・・・30% 日常点・・・10% レポート・・・60%		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	実習の心構え		
2	医療機関の見学		
3	医療機関の見学		
4	フィットネスクラブの見学		
5	フィットネスクラブの見学		
6	球技種目の見学		
7	球技種目の見学		
8	ラケット種目の見学		
9	ラケット種目の見学		
10	武道種目の見学		
11	武道種目の見学		
12	球技種目の見学		
13	球技種目の見学		
14	ボクシングの見学		
15	総括		
備考			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	スポーツ現場実習	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	加納賢一・川上吉晃	
履修目標	スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの業務を実践できるような基礎づくり			
使用テキスト等	アスレティックトレーナー専門科目⑥・⑦			
使用機器、用具				
授業運営上の留意点				
成績評価基準	筆記試験と実技試験の総合評価			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	アスレティックトレーナーの役割			
2	トレーニング指導者の役割			
3	SAQインストラクターの役割			
4	トレーニング施設での実習 1			
5	トレーニング施設での実習 2			
6	ボクシングジムでの実習 1			
7	ボクシングジムでの実習 2			
8	柔道場での実習 1			
9	柔道場での実習 2			
10	野球場での実習 1			
11	野球場での実習 2			
12	フィットネスクラブでの実習 1			
13	フィットネスクラブでの実習 2			
14	スポーツクリニックでの実習			
15	総括			
備考				

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	検査・測定と評価実習、アスレティックリハビリテーションプログラム作成実習	対象学年	担当講師
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	1年	加納賢一・川上吉晃
履修目標	アスレティックトレーナーとして検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラムができるようになる。		
使用テキスト等	アスレティックトレーナー専門科目⑤・⑦		
使用機器/用具			
授業運営上の留意点			
成績評価基準	筆記試験と実技試験の総合評価		
講数	授業内容	実施後メモ	
1	姿勢・身体アライメントの測定		
2	関節弛緩性の測定		
3	関節可動域の測定		
4	筋タイトネスの測定		
5	MMTの測定		
6	機器を用いた筋力・筋パワーの測定		
7	全身持久力の測定		
8	敏捷性と協調性の測定		
9	身体組成の測定		
10	スポーツ動作の観察と分析 1		
11	スポーツ動作の観察と分析 2		
12	上肢のアスレティックリハビリテーションプログラミング		
13	体幹のアスレティックリハビリテーションプログラミング		
14	下肢のアスレティックリハビリテーションプログラミング		
15	総括		
備考			

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	アスレティックリハビリテーション実習	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	松岡紗也香・都地英雄	
履修目標	アスレティックトレーナーとしてアスレティックリハビリテーションが実践できるようになる。			
使用テキスト等	アスレティックトレーナー専門科目③・⑦			
使用機器、用具				
授業運営上の留意点				
成績評価基準	出席点、実習内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	アスレティックトレーナーとは			
2	アレアス実習			
3	アレアス実習			
4	アレアス実習			
5	アレアス実習			
6	アレアス実習			
7	アレアス実習			
8	体力測定実習			
9	体力測定実習			
10	障害者スポーツ大会			
11				
12				
13				
14				
15				
備考				

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	アスレティックリハビリテーション実習2	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	都地 英雄	
履修目標	スポーツ実践者の外傷と障害を負った後の復帰について理解し実践する			
使用テキスト等	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト7			
使用機器、用具				
授業運営上の留意点	傷害のリスク管理のもとに復帰計画を立てる			
成績評価基準	出席点、授業内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後×E		
1	アスレティックリハビリテーション総論 1			
2	アスレティックリハビリテーション総論 2			
3	アスレティックリハビリテーションプログラム立案			
4	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
5	アスレティックリハビリテーションプログラム立案			
6	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
7	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
8	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
9	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
10	アスレティックリハビリテーションプログラム立案・実施			
11	総復習			
12	総復習			
13	総復習			
14	総復習			
15	総復習			
備考				

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	総合実習 1	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	松岡紗也香・都地英雄	
履修目標	アスレティックトレーナーの7つの役割の基本的な事項を行うことができる。			
使用 テキスト等	アスレティックトレーナー専門科目①～⑨			
使用 機器,用具				
授業運営 上の 留意点	実際の競技者とかかわることが多いので、アスレティックトレーナーとしての常識をわきまえること。毎回テーマを決めて実習を行う。			
成績 評価基準	出席点、実習内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	アレアス実習			
2	アレアス実習			
3	アレアス実習			
4	アレアス実習			
5	アレアス実習			
6	アレアス実習			
7	アレアス実習			
8	九州国際大学付属高校実習			
9	九州国際大学付属高校実習			
10	アレアス実習			
11				
12				
13				
14				
15				
備考				

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	総合実習 2	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	松岡紗也香・都地英雄	
履修目標	アスレティックトレーナーの7つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。			
使用テキスト等	アスレティックトレーナー専門科目①～⑨			
使用機器、用具				
授業運営上の留意点	実際の競技者とかかわることが多いので、アスレティックトレーナーとしての常識をわきまえること。毎回テーマを決めて実習を行う。			
成績評価基準	出席点、実習内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	アレアス実習			
2	アレアス実習			
3	紫川フェスティバル			
4	紫川フェスティバル			
5	アレアス実習			
6	スポーツ外傷・障害の予防			
7	スポーツ外傷・障害の予防			
8	スポーツ外傷・障害の予防			
9	スポーツ外傷・障害の予防			
10	スポーツ外傷・障害の予防			
11				
12				
13				
14				
15				
備考				

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	総合実習 3	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	都地 英雄	
履修目標	アスレティックトレーナーとして現場で必要スキルを学ぶ			
使用テキスト等	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト6 必要に応じて資料配布			
使用機器、用具	テーピング、ラジカセ			
授業運営上の留意点	目的に沿ったテーピング、運動指導の実施に注意する			
成績評価基準	出席点、授業内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス			
2	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス			
3	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス			
4	レジスタンストレーニングとエアロビクスダンス			
5	テーピング～足関節～			
6	テーピング～足関節、足底、踵骨部、下腿部～			
7	テーピング～アキレス腱、足関節(底背屈制限)～			
8	テーピング～アキレス腱、足関節(底背屈制限)～			
9	テーピング～膝関節～			
10	テーピング～膝関節～			
11	テーピング～肘関節、肩関節～			
12	テーピング～肘関節、肩関節～			
13	テーピング～復習～			
14	テーピング～復習～			
15	総合復習			
備考				

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	総合実習 4	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	松岡 紗也香	
履修目標	本講義では、アスレティックトレーナーとしての適切な傷害の初期評価及び応急処置ができる事を目的とする。			
使用テキスト等	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト3、専門科目テキスト6			
使用機器、用具	PC、プロジェクター、ポインターなど			
授業運営上の留意点				
成績評価基準	出席点、実習内点で評価(100点)			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
2	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
3	下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
4	上肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
5	上肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
6	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
7	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
8	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
9	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
10	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
11	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
12	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
13	上下肢のスポーツ傷害評価と応急処置			
14	総括			
15	総括			
備考				

2019年度 講義計画書

単位	時間
1	30

科目名	総合実習5	対象学年		担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年		浪尾 敬一	
履修目標	SAQトレーニングを状況に応じて適切に指導することができる。				
使用 テキスト等	資料配布				
使用 機器,用具					
授業運営 上の 留意点	実際の競技者とかかわることが多いので、アスレティックトレーナーとしての常識をわきまえること。毎回テーマを決めて実習を行う。				
成績 評価基準	実技試験				
講数	授業内容	実施後メモ			
1	プレパレーション（応用） 1				
2	プレパレーション（応用） 2				
3	アジリティ（応用） 1				
4	アジリティ（応用） 2				
5	下肢のプライオメトリクス（応用） 1				
6	下肢のプライオメトリクス（応用） 2				
7	上肢のプライオメトリクス（応用） 1				
8	上肢のプライオメトリクス（応用） 2				
9	クイックネス（応用） 1				
10	クイックネス（応用） 2				
11	スピード（応用） 1				
12	スピード（応用） 2				
13	体幹トレーニング（応用） 1				
14	体幹トレーニング（応用） 2				
15	総括				
備考					

2019年度 講義計画書

2019年度 講義計画書			単位	時間
			1	30
科目名	生涯スポーツトレーナー実習	対象学年	担当講師	
対象専攻	アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科	2年	川上 吉晃	
履修目標	障害者のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。			
使用 テキスト等	資料配布			
使用 機器,用具				
授業運営 上の 留意点	障害者のリスクと特性を考慮したトレーニング			
成績 評価基準	筆記試験と実技試験の総合評価			
講数	授業内容	実施後メモ		
1	障害者を対象としたトレーニング指導者の役割			
2	障害者のトレーニング計画の立案（総論）			
3	障害者の筋力トレーニングのプログラム作成			
4	障害者のパワー向上トレーニングの理論とプログラム作成			
5	障害者の持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成			
6	障害者のスピード向上トレーニングの理論とプログラム作成			
7	障害者の柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成			
8	障害者の傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム作成			
9	障害者のパワー向上トレーニングの実践			
10	障害者の持久力向上トレーニングの実践			
11	障害者のスピード向上トレーニングの実践			
12	障害者の柔軟性向上トレーニングの実践			
13	障害者の傷害の受傷から復帰までの実践			
14	障害者のトレーニング効果の測定と評価			
15	総括			
備考				